

現代用語の

時代——言葉が織りなす廣大な生命空間

基礎知識

自由国民社

別冊付録 マップワールド 地図で読む国際問題

特集 カラー・スペシャル 都市型震災を考える

動乱の経済—デフレを克服するために

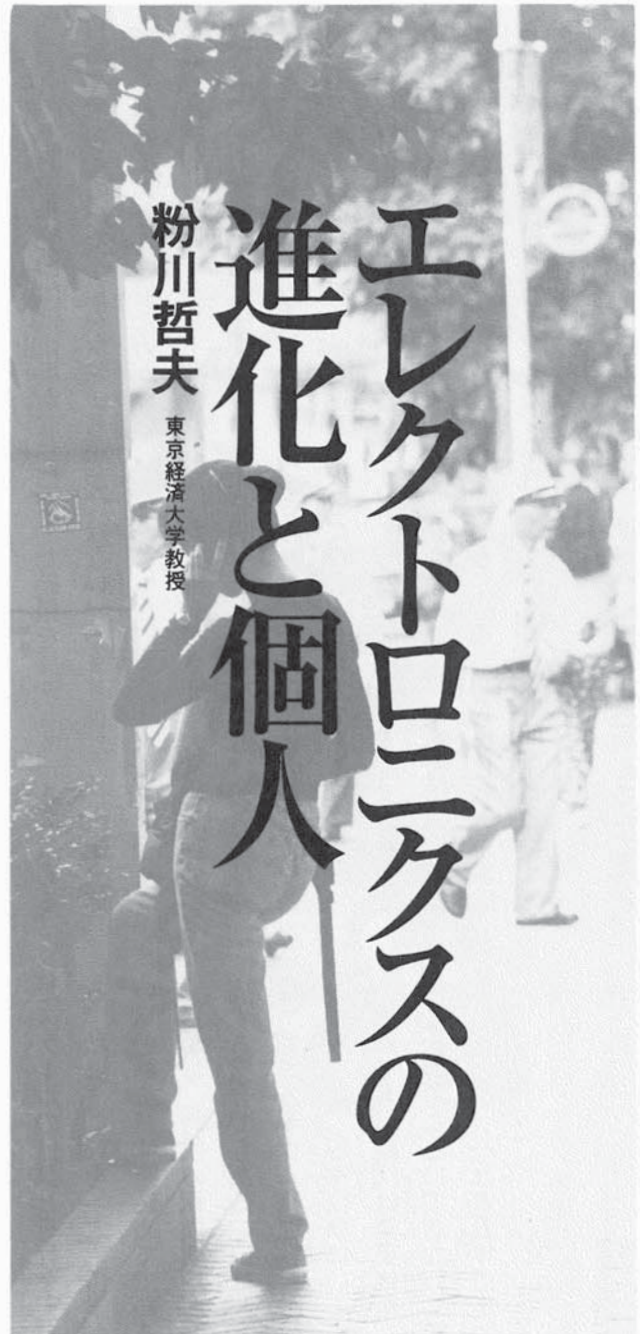
サイエンス・スペシャル 放射能と核実験

アトランタ五輪とオリンピック100年の歴史

1996

自由国民版'96.1





エレクトロニクスの進化と個人

粉川哲夫

東京経済大学教授

インターネット

この一年、メディアの世界でめざましい動きを示したのはインターネットだった。インターネットは、日本でも大分前から一部の大学や企業で利用されていたが、パソコン通信のように個人が自由に利用するわけにはいかなかった。

それが、急激に変わったのは、コンピュータの画面上で抽象的なコマンドを打ち込まなくても、マウスによるクリック操作で文字・画像・音の情報を引き出せる「ブラウザ」(Mosaic)Net (scaps)が有名)が登場したからである。これによって、インターネットは、地球

的規模で電子メールをやりとりできるだけでなく、文字・画像・音からなる「ホームページ」を発信・受信できる。

しかし、インターネットにおけるこうした技術的な変化だけが、今日のインターネット・ブームを押し上げてきたのではなく、ここには、ベルリンの壁崩壊から日本の連立政権成立にまで通底するグローバルな歴史的变化が介在していることを忘れてはならない。特に日本の場合、インターネットが、かつてのニューメディアとは異なり、単なる一過性ではない形で浸透しはじめ、確実に組織や人間関係を変えつつあることは、決して電子機器の浸透か

らだけでは説明できないだろう。

パソコン通信

インターネット・ブームの影響で、インターネットへの加入は躊躇するが、電子メールぐらいは使ってみたいという人々が、Net serverなどのパソコンネットに加入する動きも加速している。パソコンネットの方も、この間にインターネットと接続し、メールのやりとりだけであれば、事実上インターネットとしての役割を果たせるようになっていた。また、アメリカではすでに、独自のブラウザをインストールすれば、インターネット上のホームページを見ることができるようになっており、日

本でもじきにパソコン通信とインターネットとの実質的な違いはなくなるだろう。だから、インターネット・ブームが示している変化は、狭義のインターネットにおいてだけでなく、広義のコンピュータ通信全般で起こっていると考えなければならない。

日本では、こうしたコンピュータ通信の普及は、八〇年代からはじまったワープロの普及によって、人々がキーボードに慣れるということがなければ不可能であったわけだが、それだけでなく、モニターと対話するという「孤独」な作業を好むある種「個人主義的」なオタク文化によって補強されなければ決して進行しなかったであろう。

ウォークマン

ウォークマンが一九七九年に登場したとき、メーカはそれがどのように普及するかを予想できなかった。が、それは爆発的なブームになり、「ウォークマン文化」を生み出した。この場合も、もしこの時点で孤独に音楽を楽しむことをはばかるような社会風潮が濃厚であったなら、この装置は決して爆発的な人気を得ることはできなかったはずである。

携帯電話

同様に、最近急速に普及している携帯電話やPHSも、「自分は自分」と

いった個人主義的な傾向がある段階に達していない場合には、これほど普及することはできないだろう。現に、いまでも電車のなかなどで、携帯電話のベルが鳴ると眉をしかめる人はいるし、周囲を気にせず携帯電話でしゃべっている人を「自分勝手なヤツ」だと感じる人も少なくないと思う。が、これが一〇年まえだったら、いまよりはるかに周囲のひんしゆくを買い、とても平気で電話しつづけることはできなかったと思うのである。

インターネットの場合も、流行に遅れじと導入した会社で、社員が電子メールを使いはじめたことにより、それまでのタテ型にカタい組織が揺らぎ出し、インターネットの利用に制限を加えなければならなくなったという例もある。これは、テクノロジーはそれが利用される社会の慣習や生活文化と相関しながら機能するということを示している。だから、逆に、インターネットを導入することによって、いままで以上に組織の横断的な関係が強まり、その人間関係が柔軟になり、組織としても活気が増したという例もある。

日本社会は、これまで一般に、集団指向が強いとされてきた。実際、集団のなかで自己主張するよりも、まわりと馴れ合う方がよしとされ、それがすぐれたチームワークを生み、また同時に滅私奉公的な環境を作り出した。そ

うした傾向は、いまでも続いているが、微妙なレベルに注意すると、八〇年代の後半ごろから若干様子が変わってきた。

ウォークマンは、単にももの珍しいと便利であるとかいう理由だけでは、決してこれほど浸透しなかったであろうし、オタクは、単にビデオやコンピュータの普及によって生み出されたパーソナリティではない。むしろ、核家族からさらには単親家族へ大きく揺れる家族構造の変化、一人っ子の増加、物質的条件の向上から来る建築様式の変化と個室の完備といった社会的な諸条件と電子テクノロジーとが結びつくことによって生じたといった方が正しいかもしれない。

電子個人主義

電子テクノロジーは、非常に個人指向の強いテクノロジーである。これは、あなたがファミコンで遊ぶ場合と、電車に乗る場合とを比較してみればすぐわかるだろう。モーターや歯車の技術にもとづいている鉄道のテクノロジーは、人を集合させ、統合する特質をもっている。そのため、このテクノロジーのもとでは人は他人と協調することが求められる、わがままは許されない。これに対して、電子テクノロジーは、どこかで脳神経や身体の微妙な反応とシンクロしようとする性向があり（だから、

人工知能のあくなき研究が進められる）、そこでは、個人が強烈に自己主張しないと、その本来の機能が発揮されないといった特性がある。

新しいテクノロジーが導入される時点で、その特質はあまり理解されず、それ以前のテクノロジーの基準で新しいテクノロジーの特質が判断される。映画は「動く写真」であったし、テレビは「電子映画」、ウォークマンは「携帯プレイヤー」、コンピュータは「電子計算機」という具合である。しかし、少し時間がたつと、やがて新しいテクノロジーの本来の特質が露出してくる。その意味で、九〇年代は、電子テクノロジーが機械テクノロジーの古い枠を本格的に脱しはじめた時代だといえることができる。

テクノロジーと社会との出会いは、決して一律ではない。日本においては、集団指向が弱まる社会条件と電子テクノロジーが出会うことによってある種の個人主義が強まりつつある。わたしは、そこで、そうした個人主義を「電子個人主義」と名づける。これは、今の日本で次第に強まりつつある人間関係や価値観、性格を定義する上で極めて有効な概念ではないかと思う。

アメリカのように久しく個人主義的傾向が強い社会では、電子テクノロジーが、逆にある種の集団主義を強化する場合もある。が、この集団主義は、

かつての、個人が自己を犠牲にして組織や集団の一個の機械のようにさせられる集団主義ではなくて、個人が個人としての特質を保持したまま連帯しあうしなやかな集団主義である。

七〇年代になってアメリカで「ネットワーク」や「ネットワークキング」という言葉が流行するようになったとき、コンピュータ・ネットワークはまだ一般的ではなかった。放送網や通信網といったハード的な意味とは区別されたネットワークないしはネットワークキングという発想が具体化するのには、六〇年代の社会的変化の結果なのである。そして、こうしたある種の連帯の発想が社会的に広まっている条件に、やがてコンピュータによるネットワークが加わるのである。だから、このテクノロジーは、人々をより新しい形で連帯させる方向に進むわけであり、日本の場合とは異なる方向性をもつこととなるのである。

日本では、コンピュータ・テクノロジーは、まだ、個性の発揮や集団からの個人の離脱といった側面を浮き彫りにする技術である。インターネットも、個人が地球規模の「放送局」が持てること、個人で世界中の情報を手に入れる傾向がある。これに対して、ブラウザを使ったマルチメディア的なインターネット通信は、別名「ワールド・

タイムズ・スクロール

竹田青嗣

九 五年に人々の耳目を集めた最大の話題は、いうまでもなくオウム真理教事件である。そして「マインドコントロール」という言葉は、この事件によってわたしたちの関心をひくものとなった。わたしは、編集部のようなモチーフを受け入れて、この言葉について考えてみたいと思う。

なぜ多くの人間がこんな奇妙な教説をもつ「宗教」に引きつけられたのか。なぜ、あの山師のような変な男になけなしの財産までつき込み、自分の一切を委ねることができたか。そればかりか、なぜ、無辜の人間を無差別に殺すことを「正しいこと」として信じるころまで行き着いたのか……。

わたしの見るところ、これがおそらく、多くの人がこの事件において最も「気になり」、最もそのはつきりした答えを得たいと感じている問いでないだろうか。そしてまた、この問いが「マインドコントロール」(洗脳などという言葉もありうる)という言葉を浮上させているのだと思う。

ところで、わたしたちはこのような事件に出会うと、しばしばその当事者(たとえば教祖)の人格的な秘密を知ることによって事件を理解できると考える。しかし一人の人間の一切を「理解すること」なぞできないし、またそのことは重要な意味をもっていない。むしろこのような事件から最低限了解しておくべき問題がいつもある、というふうに考えたほうがいい。

わたしの考えでは、オウム真理教の事件はたいへん現代的な問題を象徴していて、必要最小限了解しておくべき核心点があるに二点あると思う。一つは、一体「善悪」の基準に根拠があるのかという問題。もう一つは、現代社会において「正しさ」を求める思想をどう扱えばいいかという問題である。ここでイメージされている「マインドコントロール」とは、いわば人の「善

悪」やモラルの基準を自由に書き換えてしまう「術」を意味する。つまりこの事件は、社会の良識的な「善悪」の基準とまったく相反するような「善悪」の基準を人の心に書き込みうる、という不気味な可能性を示したのだ。そしてこのことは、暗々裏に、じつは人間にとつて「善悪」とはそもそも普遍的な根拠を持たないようなものでないのか、という不穏な疑いをもわたしたちに直観させているのである。

ところで、かつて哲学者のカントは、道徳の問題の核心点は、「よい人間」が「必ずしも幸せな人間でありえない」という矛盾(徳福不一致のアンチノミー)をうまく解く点にあると考えた。これは一見奇妙な考え方のようだが、じつはそうでもない。わたしたちは、「よい」ことをしてもまったく報われなるとか、どんな悪いことをしても「幸せ」な人間がいる、といった現実によく触れると、この世全体に「嫌気」がさしてくるような存在であり、カントの設問は人間の心のそのような機微の核心を突いているのである。彼の答えは「だから神が要請されるのだ」というもので、今から見ると少し怪しい。しかしその問い方のモチーフはとても優れていると思う。

オウムの事件は、おそらくそのような意味で重要なアンチノミー(矛盾||二律背反)をわたしたちに提示しているので、その一つが、いったい「善悪」とは、「マインドコントロール」によって自由に書き換えられてしまう程度の無根拠なものなのか、という疑問なのである。これに対するわたしなりの哲学的な考察を言えば、こんな具合になる。

「善悪」の価値は人間独自のものだが、たとえば個々人でも共同体間においても少しづつ違いがあることを思うと、本来恣意的なものでないかという

疑いを起こさせる理由を持っている。しかし、「善悪」の価値の本質的な原型は、自分だけの快苦原則（自我のエロス）を断念して、他人との「関係の快さ」（関係のエロス）を自我の新しいルールとして内面化すること、にある。つまり、「善悪」の価値は本質的に「関係のエロス」に根拠を持つ。したがってそれは、閉じられた共同体の中で恣意的なルールとして成立することがあっても、必ずその外部からその「関係のエロス」としての本質を試されることになる。それはちょうど、ある個人の特定の「善し悪し」のルールが、必ずさまざまな「他者たち」との関係の中で試され鍛えられていくのと、まったく同じ原理なのである。

と ところで、ではある共同体が、しばしば、外部の批判をうけつけない絶対的かつ究極的な価値観を作り出してしまふ理由は何だろうか。これについてはニーチェが優れた考察を行っている。

支配されたもの、抑圧されたものは、「善悪」の価値をしばしば、ただ支配するものの価値を「反転」することで作り上げる。「貧しいもの」、「病めるもの」、「弱きもの」こそ「幸せ」である、と。この裏返された「価値」は、ルサンチマン（反感）によって絶対化され、本来人間的な「善悪」の価値が持っている、関係の合理性を求める本質を飛び越える。そこから、至上の目的のために一切が許される（悪しき人間は殺してもよい）という命題がもたらされることになる……。

このニーチェの解答は、オウム真理教が提示するもう一つのアンチノミーにも深くかかわっている。オウム真理教は、ある意味でひとつの具体的な目標と展望を持った社会批判の思想だった。その教義自体としては極めて稚拙ではあるが、しかしここに、二〇世紀的な社会批判の思想的象徴的な範型を見て取ることができる。

たとえば、二〇世紀に現れたマルクス主義（スターリニズム）やファシズムは、本来、近代国家の大きな矛盾に根本的に対抗するための思想原理だった。それらはある具体的目標を持ち、その「正しさ」の信念において多くの人間を引きつけた。ところが、これら「正しさ」の信念をもった思想もやは

り「善悪」の絶対的な価値を作り上げ、そこから「粛清」や「浄化」と称して、よく知られている悲惨な大量殺戮を生み出したのである。

もちろんオウム真理教とマルクス主義やファシズムを、簡単に同じものとして扱うことはできない。しかし、さきのカント的発想を取ると、ここでの問題の核心は、ある（絶対的な）「正しさ」の信念が「殺すなかれ」という市民社会的ルールを越え出ないという根拠はあるのか、という問題である。これはじつに外見以上に大きな難問なのである。

この問題について、ここでは簡明な形で示唆を与えておくことしかできない。わたしの考えでは、「正しさ」の本質は「共通了解」を普遍化していく意志にあるのであって、ある理想状態や究極目標の設定はその観念的に顛倒した形態にほかならない。一つの理想状態が「正しさ」の根源として設定されるのは、世界の恐るべき矛盾を目にしてこれを一挙に「打ち消そう」とする心性に根拠をもっている。つまり、「この世の中は間違っている、したがって、ほんとうの世界があるはずだ」という思考によるのだ。

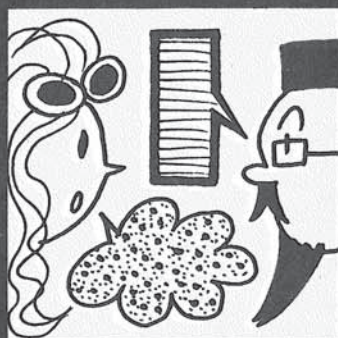
理想状態は、ちょうど面白いゲームが無数に想定できるように無数に考える。したがって、それは必ずさまざまな「正しさ」の信念の対立を生み出す。このために、「正しさ」の源泉がある理想状態から引き出す思想は、原理的に、「殺してよい」というルールに歯止めをかけられないのである。

オ ウム真理教の事件は、現代の批判思想が、どういう問題（アンチノミー）を解いて進んでいかななくてはならないかを象徴的に教えている。わたしたちはもはやかつての宗教や思想のように「偉い人に考えてもらう」仕方ではなく、個々人が「自分で考える方法」を選ばざるをえないところまできている。その道を取らないかぎり「マインドコントロール」という言葉につきまとう不穏な影を消すことはできない。

たけだ・せいじ 一九四七年生まれ。大阪府出身。
明治学院大学国際学部教授。文芸評論家。早稲田大学政経学部卒。著書に『自分を知るための哲人入門』『陽水の快楽』『在日という根拠』『恋愛論』など。

稲垣吉彦

文教大学教授



いながき・よしひこ 1930年神奈川県生まれ。慶応義塾大学経済学部卒。NHK放送文化研究所主任研究員を経て、文教大学情報学部教授。著書は「入門マスコミ言語論」「最近日本語事情」「ことばの四季報」「自己表現の技術」「流行語の昭和史」ほか。

ワードウォッチングの解説

Introduction

●ワードウォッチングとは、バードウォッチングのもじり造語で、世相語観察といった意味である。この項はこの1年の世相語観察記録である。

●「世相語」とは筆者の造語である。15年前、創拓社から『現代世相語』という本を出したことがある。その「まえがき」に、「新語や流行語、風俗語、若者のキャンパス語、失言・放言、名言、迷信などの語録、新聞や雑誌などの見出し、CM、マスコミに出た人目を引くことば、などこれらをひっくめて世相語と名づけた」と書いた。いわば世相、風俗を反映したことば一般である。これらのごときは、たちまち消えてしまうものが多いが、この欄では毎年それを記録している。このことば群の中から1年間の世相を覗くことができるという意味で、この欄は「世相ウォッチング欄」といってよいように思う。

●今回の特色は、阪神大震災関連語と、オウム真理教関連語を集めたことである。とりわけオウム関連の専門用語ないし隠語からは、この教団と事件の性格が読みとれるように思う。

●世相語の観察と記録に、読者諸氏の投稿を期待したい。

阪神大震災 関連ワード

▼激甚被害

「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律(激甚法)」に基づいて指定。復旧事業の際に手厚い措置が受けられる。

▼共振現象

阪神大震災で、マンションなど中層ビルの間階が激しく損壊した。これは共振現象による強いゆれが設計上弱い構造の中間階を破壊させた可能性があると、日本建築学会の調査団が設計上の弱点とからみ合った「複合破壊」を明らかにした。

▼推定震度

大地震で電話回線が断たれ震源近くの気象台や測候所から情報が入らなくなったとき、周囲の観測データから算出する。気象庁が発表する方向で検討。

▼ライフライン

生命線。電気、ガス、水道、電話、食料流通など生命、生活を支えるシステム。一カ所が破壊されると広い範囲で機能がまひする。

▼情断

情報の断絶。阪神大震災で

は、官邸、県庁から企業に至るまで正確な事態の把握に手間取り、それが初期動作を遅らせて災害を加速した。

▼噴石現象

直径数センチもの石が地面から噴き出す現象。阪神大震災で発生していた。地盤の液化化の一種とみられるが、普通の液化化で噴くのは砂か、せいぜい小石程度。地震で大きな石が噴いたのは世界にも観測例がないという。

▼危険度判定士

被災建物の二次災害防止のため、被災建物の危険度を判定する人。応急危険度判定制度により、赤(危険)、黄(制限つき立ち入り可)、青(使用可)の検査結果の表示を入りに掲示する。

▼災害時ユートピア

災害後一時的に人間愛に満ちた相互助け合いが活発に行われること。社会学者マイケル・バークンの指摘。阪神大震災では倒壊家屋に多くの生き埋め、閉じ込めが発生、その数二〇万人以上と推定されるが、その大半が家族や近隣の人に救出された。駆けつけたボランティアと被災者の間には善意に溢れた人間関係が生まれた。

▼クラッシュ症候群

交通事故や労災事故で手足を

はさまれた人が、救出後、腎不全や心不全になる全身障害。壊れた筋肉から出るカリウムなどが原因。外見では患部が腫れ上がっただけが意識が混濁する。阪神大震災で、被災地から大阪府内の病院に転送された負傷者の約三分割がかかっている。

▼帰宅難民

地震で交通網が寸断されたとき生じる帰宅困難者。東京都防災会議は、交通手段が途絶え、徒歩で帰ろうとしても九時間以内には帰りつけない人を「帰宅困難者」と定義している。アンケートなどをもとに計算したところ、約二四三万人にのぼっている。

▼震前・震後

阪神大震災の国民の意識に与えた影響の大きさをいっただことば。行政の無力さが露呈され、政治は猛省しなければならぬ。技術大国・安全神話への疑問が生じた。

▼自助・共助・公助

義援金一〇〇〇万円余を兵庫県知事に手渡した越森幸夫奥尻町長の談話。「災害から復興するのに必要なものが三つある。家族や親類全体で力を合わせる自助、地域の力を借りて頑張る共助、行政の支援による公助。一つでも欠けたらだめ。この三つがあれば辛

●命の笛
普通に吹くだけで90〜100ホンと防災ベル並みの音が出る小型の笛。阪神大震災を教訓に、倒壊家屋に閉じ込められたりした際に居場所を知らせる笛として防災アドバイザー山村武彦氏考案。

オウム真理教 関連ワード

▼オウム(AUM)
サンスクリット語でAが宇宙の創造、Uが維持、Mが破壊を表す。漢字では「唵」。ヒンドゥー教や密教で深い知恵を象徴する語として重視され、祈りの冒頭に唱えられる。

▼オウム世代
七〇年代末から八〇年代前半に高校や大学に学んだ世代。この時期は国立大入試に共通一次試験が導入され、偏差値による大学などの序列化が急ピッチで進んだ。この世代の精神世界に大きなインパクトを与えたのが、チェルノブイリ原発事故などを通じて強まった生命とエコロジー思想の波だったという説がある。

▼復興宝くじ
全国自治宝くじ事務協議会が発売主体になった「兵庫県南部地震震災復興宝くじ」。

▼テレワーク
勤務者を職場に通わせる代わりに、仕事を勤務者のところを持っていく仕組み。住まいにより近い施設、テレワークセンターで仕事を行う場合も。阪神大震災のとき、この勤務形態の活用がいわれた。

▼元気復興委員会
神戸商工会議所と神戸市が設立。「We Love Kobe、よみがえれKobe、がんばれ神戸っ子」がキャッチコピー。

▼震災商法
破損した家屋修理をめぐる悪質商法。苦情や相談が関係機関に相次いだ。

▼オウム世代
七〇年代末から八〇年代前半に高校や大学に学んだ世代。この時期は国立大入試に共通一次試験が導入され、偏差値による大学などの序列化が急ピッチで進んだ。この世代の精神世界に大きなインパクトを与えたのが、チェルノブイリ原発事故などを通じて強まった生命とエコロジー思想の波だったという説がある。

▼シャムバラ
小乗、大乘のさらに上の最上級の教えと実践である秘密金剛乗を指す。ヴァジラヤーナとは金剛乗で密教の根本前提とされる概念の一つ。

▼血のイニシエーション
グル(師のこと)の血液を体内に受け入れるという秘儀。カ

ルマの浄化や修行の向上等の飛躍的な進歩がもたらされるという。

▼ダルドリー・シッディ
結跏趺坐(オウムではこれを蓮華座とよぶ)の形で、跳び上がったリ、ピョンピョン跳ねたりするもので、空中浮揚の前段階だと教えている。

▼シャムバラ
シヴァ神が統治する伝説の理想郷。宇宙の全真理を極めた魂のみが行くことのできる世界だと説く。その理想郷に日本を変えようというのがオウムの日本シャムバラ化計画。

▼ロータスビレッジ
シャムバラ化計画の一つで、衣・食・住から修行、衣料、教育、冠婚葬祭、雇用機関まで必要なものはすべて備えられたに独立したオウム村を作ろうとした構想。

▼サティアン
サンスクリット語で真理を意味する。上九一色村の施設には第〇サティアンと番号を付けている。麻原教祖が逮捕されたのは第六サティアン。

▼ホーリーネーム
宗教上の名前。麻原教祖が一部の出家修行者に対して与えていた。ブッダの弟子や修行者の名前をサンスクリットから取ったらしい。

▼出家制度
オウム真理教では、家族や友人との縁を切り、財産をすべて集団生活にしながら教団の仕事(ワーク)に従事すること。全財産をゆだねることが「お布施」となり、私有物は教団の教本や身の回りの生活必需品のみとされる。サマナは出家信者のこと。

▼立位礼拝
オウムの修行方法の一つ。真っ直ぐに立った姿勢から両手を高く伸ばし合わせる。その両手を額、胸の順に下ろしていき、最後にひざまづいて手を前に投げ出すようにして地面につけ、頭を下げる。

▼マントラ
信者が唱える呪文。

▼ポア
人の意識を「移す」こと、とりわけ死後に仏界に移すことを意味するチベット仏教の用語。オウムではこれを「殺す」の意味に使った。

▼解脱
オウム真理教信者の最終目標。肉体や心の欲望、他者への怒りに代表される煩惱やさまざまな執着から身も心も離れて、安らかに自由な悟りの境地に達すること。解脱した者は絶対自由、絶対幸福、絶対歓喜の世界へと、死後、魂を進化させることができる。

▼カルマ
伝統仏教の用語でいう業のこと。業は、行いの意味で、サンスクリット語の「カルマン」の訳。仏教では、人間のすべての行いには善悪があると考える。善いカルマには善い報いが、悪いカルマには悪い報いがあるという。オウムでは、解脱に至る道として、お金を布施したり教祖の著書を流布したりする「法施」を行うことを奨励する。

▼カルマ返し
オウム真理教に不利益を与える者にはバチが当たるということ。カルマ落としは、苦難や試練に遭うことにより、前世・現世で積んできた悪しき業をなくしていくこと。信徒虐待・殺人の正当化に用いられた。

▼シャクティイバット
麻原教祖など幹部が信者の額に指を当ててエネルギーを注入するという儀式。

▼チャクラ
輪を意味するサンスクリット語に由来、身体内の霊的中枢。

▼クンダリーニ
螺旋状のエネルギーを意味するサンスクリット語。脊椎基底部から頭頂にかけて七つないし九つ存在するチャクラのうち、いちばん下のムーラダーラ・チャクラから発せられる根源的な生命エネルギー。

▼シャクティ
シヴァ神妃を指すとともに、力やエネルギー、とりわけチャクラのエネルギーを指す。

▼チャンダリーの技法
人体の性的エネルギーとされる「チャンダリーの火」が燃え上がり、中央脈管を上昇するのを観想する技法。

▼シヴァ神
ヒンドゥー教の三主神の一つで、破壊と創造の神といわれ、オウム真理教の主神。

▼パーフェクト・サーベーション
頭に電極をつけ、電流を流すことで教祖の脳波を自分の頭にたたくことができないイニシエーション。

▼プルシヤ
神秘のセラミックス「ハーン」に導師のエネルギーを込めたもので、バッジのように衣服につけるなどして用いる。バッジにはサンスクリット文字で「オウム」という音を表す文字(これが教団のマークでもある)が刻まれている。

▼PSI
頭部ベルトに電極を付け、電気的刺激を与え、麻原教祖に近い理想状態を生み出すという修行器具。

風俗・流行

現代用語の基礎知識 1996

山崎浩一

コラムニスト



やまざき・こういち 1954年神奈川県生まれ。早稲田大学政治経済学部卒。著書に「なぜなにキーワード図鑑 退屈なバラダイス 情報狂時代 書物観光 リアルタイムズ」など。連載誌「週刊文春」「週刊ポスト」「SPA!」「DIME」ほか。

この二年の人名の解説

Introduction

●この項目は、単なる《WHO'S WHO》(いわゆる紳士録)や《有名人事典》の類いとは、ちょっと異質なものになっているはずだ。ここにファイルされているのは、この1年間にたまたま目立っていた人、今その存在を情報として知っていた方がいい人、その活動や業績が価値を持つVIPな人……というようなものではない。

●①この1年間にメディアや巷間の話題に頻出した人名の中で、②新旧にかかわらず、この1年ならではの何か(たとえば事件、現象、情報、感情、空気etc.)を象徴・代表する記号=キーワードたりえていると思える人名、③それ、またはその記憶が、次の1年間にもなんらかの意味、価値、楽しみを持ち続けると思える人名。これらがリストアップの基準になっている。(もちろん紙幅の関係で泣く泣く落とした人名もあるが)

●したがって人物そのものの客観的データよりも、その人名が象徴する意味や価値への主観的コメントが優先される、やや奇妙な記述になっていたりする。けれども本来、ネームヴァリュウ(名前の価値)とは、そういうものだったのではないだろうか。

95年の人名から

▼野茂英雄

〔のもしでお〕

ロサンゼルス・ドジャース投手。一九六八年大阪府出身。成城工へ新日鉄堺へ近鉄バツファローズ。九〇年デビュー以来、一五〇km/hの速球と落差の大きいフォークを武器に、投手部門八冠王・三年連続最多勝・シーズン奪三振バ新記録・奪三振率新記録など驚異の成績を残す。九四年、故障による成績不振と監督不信により球団と対立。九五年一月、近鉄を退団。二月、ドジャースと契約。スト中のため三Aのアルバカーキを経て、五月にメジャーデビュー。六月、メッツ戦で初勝利後、七連勝・三完封を含む二三勝をあげ、チームのナ・リーグ西地区優勝に貢献。奪三振王も獲得。七月には日本人初のオールスターにも選ばれ、米国のNOMO旋風を巻き起こす。ニューヨーク・タイムズ紙も「野茂は日本から米国への最高の贈り物」と絶賛。渡米前は冷やかかだった日本のマスコミヤ評論家だが「日本を辞めた男」をたちまち「日本の英雄」にまつり上げた。「野茂の上司」トム・ラソー



マ監督や「野茂の女房役」マイク・ピアッツァ捕手が日本でも人気者になるなど、さまざまな波及効果が見られるが、その最大のもものは、野球に限らず国際プロ志向のスポーツ選手が急増したこと、やはり草の根レベルの日米関係に新たなチャンネルを拓いたことか。

▼イチロー

オリックス・ブルーウェーブ外野手。本名鈴木一朗。一九七三年愛知県出身。愛工大名電高卒。九二年ドラフト四位入団。九四年の二〇〇安打・打率・三八五(バ新記録)・MVPの驚異的活躍に続き、九五年も二年連続首位打者などでオリックスの初優勝に貢献。オールスターファン投票では史上最多の九九万票を獲得。

▼仰木彬

〔おおぎ あきら〕

オリックス・ブルーウェーブ監督。一九三〇年福岡県出身。東筑高へ西鉄へ近鉄(コーチ/監督)。現役時代は西鉄ライオンズ黄金時代の正二塁手。「仰木マジック」と呼ばれる名采配・名伯楽ぶりは、当時の知将・三原脩監督の直系か。近鉄時代に野茂を、オリックスでイチローを育てたのだから、やはりその手腕はた大事ではない。本人は「よほどのことがない限り、ただ選手の自由によらせているだけ」と謙遜するが、これは日本の管理職の最も苦手とする最高度の技術だろう。独創的な野茂のトルネード投法もイチローの振り子打



得。パ・リーグの観客動員数を大幅に押し上げ、いまや球界最高の攻守走の万能スーパースター。おまけに「投手」としての才能も非凡。いまやあらゆるジャンルで人為的な仕掛けによって「人気」も「実力」もつくられるものになってしまった時代に、彼の文句なしの実力とそれが自然に生み出した人気は、どこか懐かしい爽快感と解放感を纏って輝いている。そしてクールでスマートな彼はけっして威張らない。威張る必要もない。

のトロミは、やはり日本の小麦粉力レーのそれとは段違い。スパイスの旨みが素材の細胞と見事に融合している。これを北インドではチャパティ、南インドではごはんと共に右手で口へと運んでいく。【アジアフード】

平林千春

コミュニケーション・システム研究所 所長



ひらばやし・ちはる 1947年長野県生まれ。法政大学中退。コーポレート・コミュニケーションを核としたプランニングやコンサルティングを中心に、多数の商品開発や市場開発のプロジェクトをコーディネート。著書は「ネクストヒット」「第三の消費」「時流をつかむ技術発想」「マネジメント・コミュニケーション」ほか。

用語の解説

ビジネストレンド

introduction

●不況の長期化が続く中で、日本の産業構造や市場体制そのものの疲弊化が目立つ。そうした状況を突破しようとして、新しい企業行動のあり方やマーケティングの指標が提示されているが、戦後50年の高度成長の中で確立されたビジネスシステムの変化は遅く、なかなか新しい方向が出てきていない。その苦境期の中で、新しいビジネスの萌芽が生まれつつある。その辺の変化を抽出してみた。

●一つはマルチメディアのビジネス化が、パソコンや高度通信網の発達により、しだいに具体化し始めた。本格的なマルチメディア社会の到来はまだ先だが、マルチメディア時代のビジネスチャンスに向けての胎動が始まりつつある。そこでは新しいビジネス慣習や市場システムが生まれてきそう。将来のビジネスの基軸になる社会システムだろう。

●もう一つは、価格破壊や業態破壊、産業の空洞化が進行する中で、生活者の消費変域や商品鑑別力の進化が進み、市場低迷の陰の要因となっている。ここでは既に旧来の供給者優位の市場経済のあり方は通用しなくなっており、新しい顧客との関係づくりが求められ、試行がされている。その動きも追ってみた。

マルチメディア時代の ビジネスチャンス

全体の市場が停滞する中で、マルチメディア関連ビジネスだけは好調である。パソコンの販売台数は五〇〇万台にも達し、二〇一〇年にはマルチメディア市場は一三兆円にも達すると予測されている。だがマルチメディアの実体はまだ見えてこない。その中で新しいビジネス上の試行が始まりつつあり、従来と違うビジネス形態が現れ、将来への期待を膨らましつつある。今後のマルチメディアビジネスの方向を探る。

▼インターネット関連 ビジネス

インターネットという世界中のコンピュータ・ネットワークを網の目状に結んだシステムが、コンピュータ通信の世界を変えつつある。インターネットの利用者は全世界百数十カ国、五〇〇万人以上といわれ、日本国内での参加者も日々増えつつある。インターネットにつながるホストコンピュータ(サーバ)は五〇〇万台近くあるといわれ、そこ

で情報を提供するにはホームページというデータベースを開発する。日本でも一九九四(平成六)年秋ぐらいから接続数が急速に増え、政府機関、自治体、各企業などホームページ開設が相次いでいる。

インターネットに加入するには、月五〇〜一〇〇万円の固定費(通信料は一定が必要だが、個人向けにインターネットと接続させてくれる接続代行業や、個人で試しにインターネットを覗かせてくれる場を提供するインターネットカフェが現れ、誰もがアクセスしやすくなった。またインターネットを通じた通信販売や広告ビジネスを展開する企業も現れ、世界的な情報網として急速に普及している。

▼バーチャルモール

コンピュータの中に仮想の商店街を作り、通信回線を使って自由にアクセスし、買い物ができるというもので、いくつか実験がされている。CG(コンピュータグラフィックス)とDB(データベース)をつなげ、あたかもユーザーは商店街を歩くような感じでショッピングができる。学校で授業を受けたり、銀行で金を下ろすということもでき、コンピュータのディスプレイを自由に歩き回れるのが

特徴。コンピュータによる通信販売の中で、人間的な感覚を取り込もうというものとして注目される。

▼オンデマンド"ライ フ

家庭に居ながらにして、画像データベースを呼び出し、映画やゲームを送ってもらって楽しめるシステムとして注目されているのがビデオオンデマンド(VOD)やゲームオンデマンド(GOD)だ。つまり"お望みに応じて"好きなソフトを手に入れるもので、代表的なシステムとして既に実用化されているものに通信カラオケがあり、家庭にカラオケ映像を送信するシステムも開発されている。生活の全てを、コンピュータを使って検索し、選別して、情報や商品を伝送してもらうオンデマンド型の生活が、今後私たちの家庭にも普及してきそう。

▼エージェン ト

オンデマンド型のサービスがいろいろ行われると、いちいち各メニューを見て検索し、必要な情報・サービスをリンクエラストしなければならず、かえって余計な手間がかかる可能性もある。そこで自分のコンピュータの中にエージェンと呼ばれる電子的な秘書か代理人のようなソフトウェア

石井 研士

國学院大学助教授



いしいけんじ 1954年東京都生まれ。東京大学文学部卒。東京大学助手、文化庁専門職員を経て、国学院大学文学部助教授。著書は『都市の年中行事』『銀座の宗教』。

現代宗教

用語の解説

●戦後50年を迎えた1995年は、日本の宗教史に特筆されるべき年となった。1月17日に起こった阪神大震災は、神社、寺院、教会をはじめ、多くの宗教施設に多大な被害をもたらした。その一方で、宗教団体は、宗教が被害者の心の痛手を救済することができるのか、という重い課題を突きつけられることになった。

●また、地下鉄サリン事件直後のオウム真理教の一斉捜査、次々と明らかになる事件との関わり、教団幹部のあいつく逮捕、そして麻原彰晃教祖の逮捕は、日本人にあらためて、宗教や宗教団体とは何なのかを考えさせる契機となった。

●1995年6月に行われた読売新聞社の宗教意識調査によると、オウム真理教の一連の事件によって、宗教全般に不信感を持った回答者が32.1%と、かなりの割合になっていることが明らかになった。また、宗教法人改正を望む意見も8割を越え、日本人の宗教団体に対する厳しい態度が示された。

●1995年を迎え、キリスト教の教団をはじめ一部の教団は自らの戦争責任を明言したが、全体としての関心は薄かった。現代社会において、宗教者や宗教団体の果たすべき役割が問われている。

96年の最新語

▼阪神大震災による宗教界の被害

一九九五(平成七年)年一月一七日に起こった阪神・淡路大震災は、宗教界にも未曾有の被害をもたらした。とくに兵庫県下の神社や寺院の多くが倒壊や全焼するなど壊滅的な打撃を受けた。

浄土真宗本願寺派では、兵庫教区の寺院のうち、四分の三を超える一六〇カ寺以上が被害を受けた。神社も生田神社、西宮神社、長田神社など多くの神社で社殿が倒壊するなどの被害を受け、その様子がテレビで報じられた。各教団は、被害を受けた神社や寺院に対して、救援活動や義援金を募るなど、積極的で素早い救援対策を講じた。

宗教界は、地震による自教団の対策だけでなく、被災者に対しても迅速な救済活動を行った。しかしながら、ボランティア活動など地道な救援活動が報道によって取り上げられることはほとんどなく、むしろ被災者の心の問題に対処できない現状に批判が寄せられた。

▼太陽寺院教団、謎の

集団死事件

一九九四年一〇月四日、カナダ・モントリオール近郊の山小屋で遠隔発火装置による火事が発生、五人の死亡が確認された。翌五日、スイスのフリーブル州にあるシュリー村とレグランジュ村で火事が発生、シェリー村で二三人、レグランジュ村で二五人の遺体が発見された。遺体は赤や黄色の儀式用ローブをまとい、頭を外に向けて円形に並べられるなど、意図的な自殺を思わせる一方で、多くの遺体に銃弾や刃物の跡が見られた。現場はいずれも太陽寺院教団の活動拠点であることが判明した。

教祖を含む信者の集団死事件は、九三年四月にアメリカ・テキサス州ウエイコで起こったブランチ・デヴィディアンの集団死事件に次ぐ新宗教の事件として話題となった。教祖のリック・ジュレはベールギー植民地時代のコンゴ生まれの四六歳。ブリュッセル自由大学の医学部を卒業後、フィリピンやインドを遍歴して宗教への関心を強め、三五歳のときに新テンプル教団に近づいた。その後八七年にカナダで太陽寺院教団を設立した。ジュレは、現代医学の破綻や世界の終末に備える必要を

説き、教団に入会した者は世界の終末を免れると訴えた。

▼第六回世界宗教者平和会議 和会議開催

第六回世界宗教者平和会議が、一九九四年二月三日から九日まで、「世界の傷を癒すー平和をめざす宗教」をテーマにしてパチカンで開催された。世界六三カ国から八五〇名が参加した。最終日には「うめき、苦しむ地球」を救うための共通倫理の確立を訴えた「リバ・デ・ガルダ」宣言を採択した。

▼立正佼成会第三代会長を指名

立正佼成会の庭野日鏡会長は、一九九四(平成六年)年一月一七日第三代会長に長女の光代を指名、法名を光祥(こうしょう)とすることを発表した。現会長による法燈継承者指名は同会会規によるものである。光代は庭野日敬開祖の孫にあたる。九五年六月二日には、教団職員の日山統弘と結婚式・結婚披露宴を挙げた。

▼教派神道連合会一〇周年

一八九五(明治二八)年に神道同志会の名称で結成された教派神道連合会の一〇〇周年記念式典が一九九五(平成七年)五月三〇日に開催された。

持っている。光を当てて物の形や影などを他の表面に現れるようにしていることを表現する場合に用い、原本や原図・現物とおりによく似た写真にとることを表現するには「写」の漢字を用いる。 [漢字の成り立ち]

一九九五(平成七)年三月二日、警視庁捜査本部は、

目黒公証役場事務長飯谷清志さん(六八歳)拉致監禁容疑で、東京、山梨、静岡のオウム真理教の施設二五カ所を家宅捜索した。四月四日には、全国二〇カ所の

教団関係施設にも一斉捜査が実施された。そして五月二六日、教祖の麻原彰晃は、三月二〇日に東京で起こった地下鉄サリン事件の殺人容疑で逮捕された。

その後、八九年一月の坂本堤弁護士失踪事件、九四年六月の松本サリン事件への教団の関与をはじめ、覚醒剤や銃器の密造など、事実が次々と明らかになるにつれて、日本社会に大きな衝撃をもたらした。

▼麻原彰晃

教祖の麻原彰晃(あきはらしようこう)は、本名・松本智津夫(まつもとちづお)、一九五五(昭和三〇)年三月二日熊本県八代市に生まれた。男五人、女二人の七人兄弟の四男。置職人を父親として貧し

い家庭に育った。先天性緑内障で左目がほとんど見えず、右目の視力も悪かったために、地元の小学校に入学するものの、一年生の途中で熊本市内にある県立盲学校に転校した。

県立盲学校で小学部、中学部、高校部、専攻科の一四年間の寄宿舎生活を過ごした。専攻科で鍼灸師の資格を獲得した後、熊本市の鍼灸院に二カ月ほど勤めた。

七七年に上京、船橋市内で鍼灸師として治療を行いながら、東大を受験するが失敗。七八年一月、予備校へ通う電車の中で知り合った知子夫人と結婚、七月長女が誕生した。松本知子は五八年、千葉

県木更津市の教師の家に長女として生まれた。県立木更津高校を卒業。七八年船橋市内で漢方亜細亜堂薬局を開業し、八一年には健康食品と漢方の店BMA薬局を同じく船橋に開業した。八二年六月、麻原彰晃は薬事

▼オウム真理教のおこり

麻原が宗教への関心を持つようになったのは上京した七七年頃のこと、気学、四柱推命などの運命学や仙道に取り

組むとともに、高橋信次が始めたGLA教団に傾倒した。八一年にはヨーガの実践を通してクンダリーニ覚醒を体験した。八二年に桐山靖雄の阿含宗へ入信、一〇〇〇日間家庭で毎日四〇分ほどの供養行

を行う阿含宗の千座行を実践した。阿含宗での体験と教義は、オウム真理教のその後の活動に大きな影響を与えた。八四年に阿含宗を脱会、渋谷

でヨーガの修行道場を始めた。翌年二月に空中浮遊を体験、同じ年に神奈川県三浦海岸で、神からシャンバラ王国建設の使命を受けた。八六年三月『超能力「秘密の開発法」』を刊行、四月には渋谷区桜丘町のマンションで「オウム神仙の会」を発足した。

七月にインドに渡り、ヒマラヤで最終解脱を果たしたとされる。八七年二月にはダライ・ラマと会見した。同年七月にはオウム真理教と改称し、本格的な教団活動を開始した。八九年八月二五日、東京都から単立宗教法人として認証された。翌年には富士宮に富士山総本部道場を建設した。

▼オウム真理教をめぐる事件

この頃からオウム真理教の布教活動に対して社会的な批判

がなされるようになった。宗教法人の認証を受けた二カ月後には『サンデー毎日』が教団の反社会性を取り上げて、七回にわたる告発キャンペーンを行った。教団の出家制度

によって信者とその家族との連絡が困難になったり、出家の際に多額のお布施が渡されることなどが問題とされた。八九年一〇月にはオウム真理

教被害者の会が結成されたが、一月には被害者の会の坂本堤弁護士一家が失踪し、オウム真理教と事件との関係

が取りざたされた。神奈川県警は麻原を事情聴取したが、関係は不明のままとなった。九〇年には麻原彰晃をはじめ二五人が、衆議院選挙に真理党を母体として立候補したが、会員落選した。同年四月には地震を予言して一〇〇〇人を超す石垣島でのセミナー

を行ったが、地震は起こらなかった。同年一〇月熊本、山梨県警などは、波野村の教団キャンプや富士山総本部など全国一四カ所を、国土利用計画法違反、公正証書原本不実記載・行使等の容疑で強制捜査した。九二年にはモスクワ支部を開

設、各地の大学で講演を行うなど、ロシアを拠点に積極的な布教活動が展開された。

教団が毒ガス攻撃を受けていると主張しはじめた九四年六月に、松本サリン事件が発

生、七月には上九一色村で異臭騒ぎが生じた。九月には宮城県の旅館経営者が拉致監禁を理由にオウム真理教を告

訴、九五年二月には公証役場事務長飯谷清志さんが白昼拉致され、教団との関係が報道された。九五年六月六日に東京地検は麻原彰晃をはじめ七人を殺人と殺人未遂の罪で東京地裁に起訴した。三〇日に東京地検と所轄庁の東京都は、著しく公共の福祉を害したとして、東京地裁にオウム真理教の解散命令を請求した。

▼オウム真理教の信仰と活動

教団の教義と儀礼はしだいに変化していくが、シバ神を主神として崇拜し、真にシバ神の意志を理解し実行する者の指導のもとに、古代ヨーガ、原始仏教、大乘仏教を教義の根本として、すべての生き物を輪廻から救済することを最終目標に掲げている。教団を形成当初は、ヨーガの修行による病気の治癒や空中浮遊などの超能力獲得に中心が置かれていた。その後、さまざまなイニシエーションを経ることによって解脱を目指す

指向性が強まっていった。教義に関しても、たんなるヨーガの世界観を踏み超え、オカルティズムなどで用いられるアストラル世界やコーザル世界が、階層的宇宙観として提示されるようになった。さらに八九年以降は、人類の救済とともに終末論思想が前面に押し出されるようになった。最盛期には、東京南青山の東京総本部、亀戸の新東京総本部、富士宮に富士山総本部をはじめ全国に二〇を超える活動拠点を有し、海外にもニューヨーク、ボン、スリランカ、モスクワに支部を置いていた。国内信徒は約一万人、そのうち出家信者が一〇〇〇人ほど、海外ではロシアに三万人の信者がいたといわれる。事件後、教勢は大幅に減少した。海外支部は、ロシア支部が政府から活動停止命令を受けるなど、ほとんど活動していない。

修行にさまざまな薬物が用いられていた点、公益性を持つはずの宗教団体が毒ガスによる無差別大量殺人を実施した点、大量の武器を所有・製作していた点、そしてこうした事件に少なからぬ数の高学歴の教団幹部が関わっていた点など、オウム真理教が起こした一連の事件は、たんなる宗

教団が毒ガス攻撃を受けていると主張しはじめた九四年六月に、松本サリン事件が発生、七月には上九一色村で異臭騒ぎが生じた。九月には宮城県の旅館経営者が拉致監禁を理由にオウム真理教を告訴、九五年二月には公証役場事務長飯谷清志さんが白昼拉致され、教団との関係が報道された。九五年六月六日に東京地検は麻原彰晃をはじめ七人を殺人と殺人未遂の罪で東京地裁に起訴した。三〇日に東京地検と所轄庁の東京都は、著しく公共の福祉を害したとして、東京地裁にオウム真理教の解散命令を請求した。

修行にさまざまな薬物が用いられていた点、公益性を持つはずの宗教団体が毒ガスによる無差別大量殺人を実施した点、大量の武器を所有・製作していた点、そしてこうした事件に少なからぬ数の高学歴の教団幹部が関わっていた点など、オウム真理教が起こした一連の事件は、たんなる宗